

認定心理士認定委員会より

1. 認定心理士研修会のアンケート結果について

認定心理士の研修会が平成 22 年 5 月 22 日に「広告メディアと心理学の融合」のテーマで開催された。参加者総数は 193 名で、そのうち 121 名からアンケートの回答を得た。参加者の年代別の割合をみると、20 歳代、40 歳代、50 歳代がいずれも 20 パーセントを超えており、性別では女性が 68.6 パーセントであった。参加者には、20 歳代と、40 歳代・50 歳代の 2 つのピークがあり、女性を中心といった特徴があることがわかる。参加者の 79.8 パーセントが認定心理士、1.6 パーセントが日本心理学会会員であった。認定心理士を対象にした研修会であるので、その目的には合致した参加者の構成と思われる。

さらに 1 週間後の 5 月 29 日に「ストレス社会でいかに認知行動療法」のテーマで研修会が開催された。参加者総数は 161 名で、そのうち 144 名からアンケートの回答を得た。参加者の年齢別の割合は、40 歳代、50 歳代の 2 つの年代で 25 パーセントを超え、性別では女性が 81.9 パーセント

であった。認定心理士の参加者は 64.0 パーセント、日本心理学会会員は 1.2 パーセントであった。金城学院大学との共催の研究会だったこともあり、一般からの参加者が 30.7 パーセントと、かなり人数比が高かったことが特徴であった。

2. 認定心理士教科書作成について

認定心理士教科書作成小委員会（委員長・久野雅樹）では、教科書として、日本心理学会編『認定心理士資格 準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎』（仮）の出版の準備を進めている。

この教科書の企画は、日本心理学会の認定委員会の作業から生まれた。毎回の委員会で、委員が最も判断に悩むのが、c 領域の「心理学実験・実習」である。基準によれば、心理学基礎実験・実習を経験すること、実験者や実験参加者となること、調査協力者として参加体験すること、毎回報告書を提出することなどが必要とされる。しかし、現在、日本の大学において心理学との関連をもつ学科は多数設置されているとしても、心理学実験・実習に十分な準備が整っているか疑わしい場合がある。心理学実験・実習という科目名にもかかわらず、内容が一部の

分野・方法に偏ったもの、実習課題の数がごく少ないもの、レポートの提出を課していないものなどが見受けられる。こうした状況が稀ならず認められるのが認定委員会の直面している現状である。

心理学の実験演習用の教科書類はすでに存在するが、認定心理士の資格が求める基準を満たし、しかも使いやすいものとなると、かならずしも満足できる状況ではない。そこで、初等実験・調査、基礎実験が心理学教育にとってきわめて重要であると考え、教科書を作成することにしたのである。

3. 教科書出版のガイドライン

教科書出版のガイドラインとして、

- ①初学者にわかりやすく教育効果が高いと思われる実験・調査を取り上げること
 - ②心理学のさまざまな領域、研究方法を見渡し、古典的な題目に新しい題目をまじえてバランスのとれた内容とすること
 - ③各章の記述が実際の授業での教育・学習活動を適切にサポートする内容となること
- などが、めざされている。

（日本心理学会認定担当常務理事・日本大学教授 横田正夫）

編集後記

心理学ワールドの編集委員になって初めて特集を担当しました。でも正直に申し上げます。この特別企画の骨子は編集委員長の仲先生が立案されたものです。昨年 12 月ごろからの構想です。仲先生、本当にご苦労様です。今号からページが増え、本誌の表紙が新しくなったことに気づかれた方もいらっしゃると思います。次号からはさらに中身も大きく変わり、新しいコーナーもはじまります。どうぞご期待ください。（宮本聡介）

編集委員（五十音順）

編集委員長	仲真紀子	北海道大学
編集委員	青山謙二郎	同志社大学
	久保南海子	愛知淑徳大学
	櫻井研三	東北学院大学
	三宮真智子	大阪大学
	柴崎光世	明星大学
	杉浦義典	広島大学
	深谷優子	東北大学
	宮本聡介	明治学院大学
	森岡正芳	神戸大学
	渡邊芳之	帯広畜産大学

心理学ワールド [51 号] 2010 年 10 月 15 日発行

年 4 回発行（1 月、4 月、7 月、10 月）

発行人—繁 柁 算 男

編集・発行—(社)日本心理学会 〒113-0033 東京都文京区本郷 5-23-13 田村ビル TEL 03-3814-3953

表紙デザイン—虎尾 隆 印刷・製本—銀河

制作—(株)新曜社